



※解答欄が足りない場合は、ワークシート裏面に書くこと

2020年1月15日朝刊

①世界でトップクラス、静岡県立大学のお茶研究を参考にして薬学と茶学の融合方法と効果を考察せよ。

②緑茶で健康づくりを行うにはどのようにしたら良いか、方策を具体的に論ぜよ。

③自分の在籍する高校に於いて、生徒の茶の消費拡大を目指すにはどのようにすればよいか、考えるところを述べよ。



緑茶摂取と介護認定の関係を示した県の調査結果

	介護認定の状況 (単位:人)				
	認定なし	要支援1～要介護1	要介護2以上	死亡	計
緑茶の摂取状況					
ほとんど飲まない	487	32	20	27	566
1日に1～3杯	3181	198	96	112	3587
1日に4～6杯	4068	220	104	122	4514
1日に7杯以上	1577	67	34	38	1716
計	9313	517	254	299	10383

県内全市町1万人追跡調査

緑茶飲むほど

緑茶をたくさん飲むほど介護予防に効果的で死亡率も下がります。県が県内全市35市町の高齢者約1万人を追跡調査した結果、こんな傾向が浮かび上がった。緑茶を1日7杯以上飲む人はほとんど飲まない人に比べて、要介護認定(要支援1～要介護1)の割合がほぼ半分だった。県は調査結果を積極的にアピールし、県民の健康づくりや茶の消費拡大に役立てたい。

介護予防に効果 死亡率も低下

毎日7杯以上、割合半減

生かしていく。県は2014年2月、35市町に住む65歳から84歳までの高齢者を対象に緑茶の摂取状況などをアンケートし、1万5356人が回答。そのうち介護認定の状況を追跡できなかった人などを除く、1万3838人のデータを今回分析した。1日に飲んでいる緑茶の量と要介護認定や死亡の関係を調べたところ、緑茶を1日に7杯以上飲む人は、ほとんど飲まない人に比べて要介護認定や死亡の割合が47%低かった。1日4～6杯だと42%、1日1～3杯だと31%それぞれ下がり、飲む量が増えるほど割合は小さくなっていった。要介護2～5の重度の要介護認定に限って分析しても同様の傾向が表れた。県が市町の協力を得て介護認定の状況などを調査し、分析は浜松医科大学の尾島俊教授(健康社会医学)が監修した。1日7杯以上の緑茶摂取の分類を含めて分析した事例は他県にないという。(政治部・大橋弘典)

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 実石 克巳(静岡県立静岡高校 教諭)

(高校/国語)

<参考> ①=薬学、栄養学、医学に関する問題、②=医学、看護学、栄養学、地域行政学に関する問題、③=教育学、栄養学に関する問題